

# CLUB NEWS

2020-2021年度国際ロータリーテーマ  
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ



新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

vol.  
1250

2020-2021  
MEETING

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- |                 |                 |                         |
|-----------------|-----------------|-------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎     | ■ 職業 奉仕 佐竹 純 一  | ■ 副 幹 事 佐藤 太            |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会 奉仕 小泉 俊 哉  | ■ 会 計 深瀬 隆 志            |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭  | ■ 青少年 奉仕 相川 博 昭 | ■ S A A 川 合 勝 芳         |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子   | ■ 国際 奉仕 中川 清 美  | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナウ(ドイツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史   | 第2800地区ガバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
|                 |                 | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山)  |



ロータリーは機会の扉を開く

◆日時/2021.2.16 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/それこそロータリー

## 会長挨拶



みなさん、こんにちは。本日のお客様をご紹介します。2800地区青少年奉仕委員会委員長の遠藤伸一さんです。本日の卓話どうかよろしくをお願いします。

さて、女性蔑視(べっし)発言問題が話題となっておりますが、今月「平和構築と紛争予防」月間を考える上で、この「多様性」についてお話をさせていただきます。

厚生労働省の統計によると、日本の新生児の49人に1人が、日本人と外国人の間に生まれています。これはグローバル化に伴い、人々の移動が盛んになり、日本においても両親のどちらかが外国人である人が存在するようになった結果だとされています。

地区事務局から転送されてくる情報に、「日本のマイノリティ(少数派)に光をあてる平和フェロー」と題する、アメリカ出身ファラ・ハスナインさんの紹介記事がありました。この平和フェローとは、世界各地で協力と平和を推進し、紛争解決に貢献するリーダーのことです。ロータリー平和フェローシップ(奨学金)を通じて、こうした担い手となる人材を育成することを目的に、2002年創設以来、1,400名以上のフェロー輩出しているのだといいます。彼女は日本の高校での英語教員

の経験を通じて、異文化を背景にもつ生徒たちが、そのルーツを長所ではなく、むしろ厄介なことと考えていることに気がきました。そこで彼女は授業で、日本社会で異文化のルーツをもつ人たちが抱える複雑な事情を紹介したドキュメンタリー映画『ハーフ』を生徒たちに見せました。生徒たちは皆、この映画に真剣に見入っており、感想文には、授業でのディスカッションよりも率直な思いが伝わられ、そして学期が終わる頃には、多くの生徒が、ハーフの同級生たちの気持ちに共感できるようになったと。また、自分が在日外国人であることを告白する生徒も出てきたというのです。

私も休みに、この映画『ハーフ』をアマゾンプライムビデオで観ました。その中で、ハーフの子を持つアメリカ人の母親の言葉がとても印象的でした。「ひとつのモデルを押し付けるのではなく、異なる文化を持つ子どもたちが自分らしくいられる場所に。多様な人々に扉を開けた日本を期待しています。」という親の願いが語られていました。私も、日本人としてこうした「多様性」の問題について、自分事として考えなければと思ったところです。是非機会があれば、映画『ハーフ』をご覧頂き、「多様性」について考えて頂ければと思います。

今日もどうかよろしくをお願いします。ご清聴ありがとうございました。

## 本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	28名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



## ゲスト卓話

# 青少年奉仕について

地区青少年奉仕委員長 遠藤伸一氏(寒河江RC)

皆さんは青少年奉仕、青少年交換プログラムと聞いてどの様に感じるのでしょうか？青少年交換というのは何かと知ろうとすれば、国際ロータリーのCOP行動ポリシー。日本語で言えばロータリー章典でこのように規定されております。

ロータリー青少年交換は海外の人々と交流し、異文化を体験し、外国の生活、あらゆる側面を直接学ぶ機会を青少年に提供している。異文化出身の学生を幅広く緊密な交流を通じて、受け入れクラブ、ホストファミリー、そして地域社会全体も豊かになる。このプログラムは青少年の国際理解と親善の精神をはぐくむものであると、ちゃんと良くかいてあります。

本当にごもっともですけれど、この趣旨は何もロータリーの青少年交換プログラムに限った事ではなくて他のプログラムにも言えますよね。

例えばロータリー財団奨学生や、米山の学生、あるいはロータリー以外の数々のホストファミリー制度や、各種奨学金制度でいわゆる留学生制度でも十分今言った趣旨が通じると思います。じゃ、ロータリー青少年交換プログラムの特異性というのはなんなのか？という問いはおのずとできます。異国の文化、伝統を勉強すると言う単なる留学制度とは根本的に違った高い理想と理念をもつ交換制度であるとあらためて気づかされました。

すなわちロータリー青少年交換は私達の子供、ロータリーの子供を私達ロータリーとロータリアンが互いに協力して、それらの子供の本当の親となって立派な人間に育てる事、文化、宗教、習慣は異なっても互いに愛し、尊敬できる立派な国際人をロータリアンが力を合わせて育てる事。それがロータリー青少年交換の理念と言う事だと思います。世界のロータリアンがロータリーの子供達を育てる。これは交換制度ではなく、ロータリーの子育てプログラムであると言う事

に気づかされました。ロータリー青少年交換の歴史を見てもこの事は良くわかります。

ロータリー青少年交換はロータリーの子弟が参加出来る唯一のプログラムです。ロータリーの青少年交換プログラム以外の他の奉仕プログラムは、たとえば財団奨学生をはじめ、他の奉仕プログラムは全てロータリアンが関係していない組織や人々を対象にしたプログラムです。と言う事は、ロータリーは自分たちの為にしない。ロータリー以外の人達にするというのが奉仕の原点としてあるみたいですね。ただ例外があって、ロータリー青少年交換だけは自分たちの子弟が参加出来ます。これはどういう事か？と言うことです。

ロータリアンの子供達、息子達、娘達には素晴らしい子供もいますけど、結構ボンクラもいますよ。自分の息子、娘もそんなもんですよ。だからロータリーみんなでお互いの子供を面倒みようよと、育てようよ考えたのだとおもいます。

世界中のロータリーが、ロータリアンがお互いあなたの子供を私が1年預かり育てる。その代わりに私のボンクラも1年預かってくれないか。だから少々悪くても、ロータリアンの両親が協力して育てると言うのがはじまりです。そこに高い理想や理念があると考えられたほうが良いと思います。

現在のロータリー青少年交換はロータリアン以外の子弟が多く、いや実はロータリアンの子弟以外の方が圧倒的に多くなっています。高校生の留学制度、ホームステイ制度とのイメージが強くなっていますが、よくよくこの青少年交換プログラムを見てみると、このプログラムがただの留学プログラムでない事が解って頂けると思います。

ロータリーの、ロータリアンによる我々子供の子育てプログラムということなんです。だから私はこの頃ホス

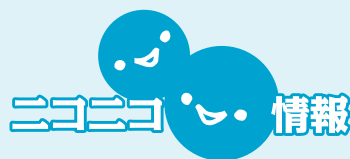
トファミリーを里親と思っています。その方がピンと来るでしょう。ホストファミリーって言うと、その辺の旅行会社がしているものと変わらないけど、里親と言った方がロータリーにはピッタリくるような気がします。

このように考えれば具体的にどの様に地区、クラブ、ホストファミリーでホストファミリーと言うよりは里親と言った方が良いのですが、その里親が里親としてどのようにこのプログラムを運営していったら良いのかと言うのは容易にご理解頂けると思います。何か問題が起こった時、親だったらどうすればいいのか。と考えればいいのです。そうしたらルールを少々破っていてもなんとかなる。そここのところが基本に無ければならない。ようは極めて簡単。自分の子供ならどうするかを常に考えて行動すればいいことです。1年間、それも思春期でやっかいな子供、その彼らを自分の子供と思って育てればいいのです。海外から来る子供達は一見、日本の高校生と比べると大人に見えます。でも全くそうではありません。日本の16、17歳の子供と全く同じです。彼らの中身はやっぱり16、17歳の愛すべき子供です。来日学生はいわゆる問題を起こすのは当たり前。学校には行かない。言う事も聞か

ない。ですから里親さんたちは実に変。でも彼らを実の子供と思った時には、わりあい心のつかえが取れるのです。預かっていると思うから大変なのです。下宿人と思うから大変なのです。来日学生の中にはとても立派な子供もいれば、それなりの子供、どうしようもないような子供も来ます。そのような子供があなた方みなさんのお宅にやって来た時、まずは縁と思ってあきらめて期待はしない。この子に立派な日本文化を教えようなんてしない。もうこの程度か。しょうがないなと思った時、道は開けるものです。そして一番大切な事は来日して1年経って帰る時、お父さん、お母さんありがとうございました。また来ます。と言われたら成功です。その一言だけでいいのです。他には何もいらぬのです。そして彼らはまたきっと日本に帰ってきます。日本の家族、お父さんお母さんの所に帰ってきます。そして彼らはきっと日本の良き理解者になってくれます。

子供達も勇気を持って留学すると一歩踏み出しました。

皆さんも、出来ない理由を考える前に、結果、成果、感動を信じてホストクラブに、HFに一歩踏み出して下さい。かけがえのない体験になるはずですよ。



**相川博昭**／遠藤委員長卓話ありがとうございました。青少年奉仕について理解が得られた様に思います。

**板垣喜代志**／2800地区青少年奉仕委員会に奉仕を！！ガンバレ！！追伸：大坂ナオミちゃんベスト4お願いします。

**高橋恭治**／遠藤様卓話ありがとうございました。私事ですが、j東バイパス店グランドオープンフェアが無事大成功に終わりました。お近くをお通りの際はぜひお気軽にお越しください。

**寒河江RC 地区青少年奉仕委員長 遠藤伸一**／卓話に呼んでいただき感謝。

**玉ノ井憲史**／本日の卓話ありがとうございました。幹事と奉仕委員長と大変ですが、頑張ってください。

**小林敏郎**／本日より会場の工夫を試みましたが、いかがでしょうか。遠藤様、卓話ありがとうございました。